

日本気象学会昭和63年度総会議事録

日 時 昭和63年5月19日(木) 13:00~14:00

場 所 千葉県柏市柏下107

会 場 千葉県柏市市民文化会館

総会次第

1. 開会の辞
2. 議長選出
3. 理事長(代理浅井理事)挨拶
4. 各賞受賞者選定経過報告
5. 学会賞授与
6. 藤原賞授与
7. 昭和62年度事業報告
8. 昭和62年度会計決算報告
9. 昭和62年度監査報告
10. 昭和63年度事業計画案, 予算案審議
11. その他
12. 閉会の辞

出席者数

出席者	205名
委任状	821名
計	1021名

1. 開 会

中村理事から定款第38条による総会成立に必要な出席者数719名(通常会員現在数3594名の5分の1), うち委任状によらない出席者144名(通常会員の25分の1)が満たされているので総会は成立するとして, 開会が告げられた。

2. 議長選出

中村理事が議長選出は出席会員の互選によるが, 慣例にしたがい大会委員長の山崎道夫氏を推薦したいと諮ったところ, 満場一致で承認され同会員が議長に選出された。

3. 議長挨拶

山崎議長からご協力をお願いする旨の挨拶があった。

4. 理事長代理(浅井理事)挨拶

山元理事長からの挨拶が浅井理事により代読された。

- (1) 3年前理事長に就任したときは, 会員数の減少を食い止めることが第一の目標で, 会員の皆様にも会勧誘などご協力をお願い致しました。お蔭様で,

会員数の減少を最小限に食いどめることができず, 今年4月現在全会員は約4200名以上でして, 皆様のご協力に感謝します。それにともない予算規模も拡大し昭和63年度の予算は一億円を超えることになりました。

- (2) 最も重要な学会活動は機関誌などの刊行と年2回の大会の開催です。「天気」のページ数は年間約800ページとなり, 4年前に比べると百数十ページの増加で, 内容においても「研究機関めぐり」や「情報File」等の欄が新設されるなど新しい企画が実施されてきました。「天気」が会員の皆様にとりさらに魅力あるものにするため, 編集委員会では努力しており, 会員からの意見を待っています。

「気象集誌」も1000ページを超えており4年前に比べると数十ページの増加です。また英文添削も実施して, 掲載論文に対する国際的な関心が高くなっています。これは会員皆様の日頃の活躍の賜であると共に編集委員会の努力の結果だと存じています。

一昨年開催された数値予報シンポジウムのプロシーディングスが昨年気象集誌の特別号として刊行され大変好評ですが, これについても編集委員会のご尽力に敬意を表したいと存じます。

気象研究ノートの新刊行が, 一時, 間遠になっていましたが, 編集委員会のご尽力により, 順調に刊行されるようになりました。

- (3) 印刷技術の発展に伴って, コンピューターを利用した印刷方式の実用化の可能性があります。気象集誌の印刷をこの方式で実施しますと, 印刷の経費はかなり軽減できる見込みです。今までの物と比較して遜色の無いことを確認できれば, 昭和64年の第1号から新方式に移行することを検討しております。また, その機会に現在のB5版からA4版に変更することも検討中です。
- (4) 著作権の設定についても関係理事や委員有志のご尽力により, 進められており, 気象集誌と大会予稿集はすでに設定されましたが「天気」や「研究ノート」も近く設定される予定です。
- (5) 春と秋の年2回の大会での研究発表は皆様すでにご承知のごとく盛況であります。講演企画委員会の努力により, 昨年から実施しているポスターセッション

ョンはかなり好評でもあり、ほぼ定着致しましたので、引き続き実施したいと考えています。

新たな企画としてスペシャル・セッションを計画しています。これは大会毎に異なる特定の課題を予め会員の皆様にお知らせしておいて、発表申し込みの際に、その課題に関連した内容のものはなるべくそのセッションで発表していただくようにしたいとの構想であります。できれば今年の秋の全国大会から実施したいと考えているので、会員皆様の意見を十分におききしたいと存じます。

- (6) 日本学術会議の第13期の会員の任期が今年7月に終了します。そのために、第14期の会員の選出が近く行われますが、既にわれわれの学会からは候補者を推薦しております。この様な会員の改選にもない学術会議の種々の委員のメンバーの改選も行われます。気象学会に係る委員会としては、委員数9名の気象学 研究連絡委員会、委員数8名のWCRP 専門委員会があります。そのほかに地球物理学 研究連絡委員会に1名のメンバーを派遣することになっています。これらの委員の選出は理事会で検討したいと存じます。

なお、第12期まで地球物理学 研究連絡委員会の中に大気電気小委員会が設置されていましたが、学術会議の制度改正に伴って、このような小委員会の設置が認められないままでした。しかし、第13期の地球物理学 研究連絡委員会はこのような小委員会設置の必要性を認めて、第14期においても引続き小委員会の設置に向けて働きかけることを、申し送ることに決めています。

- (7) 会員が海外での国際研究集会に参加することを奨励するなど、国際学術交流を促進するために、国際学術交流基金を設けています。会員の有志からカンパをお願いしていますが、多くの会員の協力を得ることができまして、現在、その基金は約800万円に達しました。この機会にお礼申し上げます。これにより、年間数名の会員の海外渡航を補助してきています。

この基金には学会の一般会計からの分も含まれていますが、理事会では、賛助会員などの関係団体にも、働きかけてこの基金の一層の充実而努力しています。そして、開発途上国の若い研究者を招待するなど学術交流事業を拡充したいと考えています。

- (8) アメリカ地球物理学連合 (American Geophysical

Union 略称、AGU) の理事長の Eagleson 博士から理事長宛に、1990年8月に、会期が5日間以内のAGUの大会を日本で開催する予定であり、その大会を共催することについて、個人的意見を打診してきました。

この大会の経費は、基本的にはAGUが責任をもつが、共催する日本の学会の応分の財政寄与を歓迎するとの事です。また、日本の学会の代表がプログラム委員会に参画することも約束しています。

今回の打診は、理事長の個人的意見を聞いてきたものですが、常任理事会の意見を参考にして共催に前向きである旨、個人的意見を知らせました。昨日、開催した全国理事会でもこの件について審議して理事長の方針に賛成との結論を得ました。2年後の開催ですが、他の関連学会と連絡をとりながらこの研究集会を有意義なものにしたいと考えています。この打診はわが国の地球物理学の他の学会にもあり、その多くは賛成の意向です。

- (9) 気象学会には、学会賞と藤原賞が設けられていましたが、そのほかに堀内会員のご好意に基づいて、昨秋の札幌の臨時総会で新しく「堀内基金奨励賞」の設定を決定していただきました。現在この委員会が討議を進めて候補者の選定に当たっています。

この賞の設置などを討議した過程で技術ないし応用分野における貢献の表彰が話題に上がりました。我々の気象学会は、大学や試験研究機関の所属の研究者のみでなく、予報業務の技術の広い分野で活躍している多くの会員を擁していますので、この様な分野における貢献を対象とした新しい賞の設立も意義あることと考えられます。賞を増やすこと、財源等、今後検討する事があるのできたんの無い意見を理事会へお寄せ頂くよう希望します。

- (10) 来年の秋の全国大会は、九州支部でお世話願う順番でしたが、沖縄支部が九州支部と相談の上、沖縄で昭和64年の秋季大会を開きたいとの希望を表明されました。沖縄での全国大会は、初めての事でもあり理事会は希望に沿ってできるだけ便宜を図りたいと考えていますので、多くの参加を希望します。

- (11) 今年の4月に学会の事務局長が交替しました。片桐勝男、加藤 寿両氏が4ないし5年ご尽力されましたが、3月末で退職し、新しい伊藤嘉一氏(事務局長、庶務も兼任)馬場和一氏(会計担当)が着任しました。

会員数や、会員数や予算の著しい増加、また、国際的な活動の活発化に伴い事務量も膨大なものとなってきました。かねてから、パソコンの導入とその活用を進めてきましたが、かなり軌道にのせられるようになってきました。しかし、機械化のみで済まされないこともあり、理事会では、円滑でかつ健全な学会運営ができるように、事務局体制の検討を進めています。

(12) 最後に、今回の全国大会が盛大でかつきわめて順調に運営されていることについて、大会委員長の山崎道夫大学校長をはじめとする気象大学の皆様のご尽力に、会員の皆様と共に感謝して、挨拶とします。

5. 各賞受賞者選定経過報告

日本気象学会賞、藤原賞の受賞者選定の経過およびその理由について廣田担当理事から報告があった。

6. 日本気象学会賞授与

浅井理事長代理からつぎの会員に賞状・賞金が授与された。

- ・時岡達志会員（気象研究所・気候研究部）
「大気大循環モデルの開発と、それによる大気大循環の数値実験的研究」
（受賞者出張中のため 桐山一陽会員が代理受賞した）
- ・小野 晃会員（名古屋大学水圏科学研究所）
「大気エアロゾルの物質組成に関する研究」
（受賞者は亡くなられたのでご夫人が代理受賞した）

7. 藤原賞授与

浅井理事長代理からつぎの会員に賞状・賞金が授与された。

- ・河村 武会員（筑波大学）
「都市気候の研究に関する一連の業績と学会活

動への貢献」

8. 昭和62年度事業報告

中村担当理事から資料に基づき説明があり、承認された。

9. 昭和62年度会計決算報告

土屋担当理事から資料に基づき説明があり、承認された。

10. 昭和62年度監査報告

相原監事から昭和63年4月19日に実施した監査について資料に基づき説明があり、承認された。

11. 昭和63年度業計画案、予算案審議

中村、土屋担当理事から資料に基づき説明があった。議長からこの件について採否を求めたところ多数により承認された。

12. その他

会員から次のような質問があった。

質問：秋季大会におけるスペシャルセッションについて具体的構想の説明をしてもらいたい。

回答（講演企画担当の村上理事）：既成の分類に拘らずそれらを組み合わせたり、また最近話題となっているような特定のテーマを決めて、発表を募り、諸分野の人が集まって活発な討論ができるようにしたい。

質問：仙台でのスペシャルセッション「地表面・大気相互作用」では、海洋の境界面も対象とするか。

回答（呼かけ人の増田耕一会員から）：海洋・地球表面と大気との境界の問題を対象とする。

13. 議長解任

議長より会員の協力により無事終了した事について、謝意を表し、議長解任の挨拶があった。

14. 閉会

以上をもって、日本気象学会昭和63年度総会を終了した。

収 支 計 算 書

(昭 6 2 . 4 . 1 日 ~ 昭 6 3 . 3 . 3 1 日)

社団法人 日本気象学会

科 目	予 算 額	決 算 額	内 訳		差 異	備 考
			公 益 部 門	収 益 部 門		
収 入 の 部						
1. 基本財産運用収入	1,039,918	2,037,250	1,472,777	564,473	997,332	
基本財産利息収入	864,918	1,472,777	1,472,777	0	607,859	
基本財産配当金収入	175,000	564,473	0	564,473	389,473	
2. 会費入会金	3,539,248.5	3,359,514	3,359,514	0	△203,297.1	
個人会員会費入会金収入	2,632,089.6	2,443,123.7	2,443,123.7	0	△1,889,659	
団体会員会費収入	4,868,640	4,859,400	4,859,400	0	△ 9,240	
外国人会員会費入会金収入	776,631	679,212	679,212	0	△ 97,419	
外国人団体会員会費収入	626,318	592,065	592,065	0	△ 34,253	
賛助会員会費収入	2,800,000	2,797,600	2,797,600	0	△ 2,400	
3. 事業収入	20,730,734	27,077,908	9,523,980	17,553,928	6,347,174	
大会開催事業集収入	0	783,030	783,030	0	783,030	
気象研究ノート刊行収入	8,129,534	14,533,745	0	14,533,745	6,404,211	
予稿集刊行収入	3,920,000	3,685,700	3,685,700	0	△ 234,300	
気象集誌特別号刊行収入	4,583,700	3,429,000	3,429,000	0	△1,154,700	
その他の収入	4,097,500	4,646,433	1,626,250	3,020,183	548,933	書店扱ページ等 学術用語、その他
4. 補助金収入	3,710,000	3,710,000	3,710,000	0	0	
文部省補助金収入	3,710,000	3,710,000	3,710,000	0	0	
5. 寄付金収入	100,000	1,631,000	1,631,000	0	1,531,000	
寄付金収入	0	1,000,000	1,000,000	0	1,000,000	
募金収入	100,000	631,000	631,000	0	531,000	
6. 雑収入	12,704,250	12,815,680	9,611,760	3,203,920	111,430	
雑収入	12,704,250	12,815,680	9,611,760	3,203,920	111,430	
7. 特定預金取崩収入	4,500,000	4,500,000	4,500,000	0	0	
総会費用引当預金取崩収入	0	0	0	0	0	
退職給与引当預金取崩収入	0	0	0	0	0	
気象集誌特別号刊行費 引当預金取崩収入	4,500,000	4,500,000	4,500,000	0	0	
8. その他収入						
公社債信託取崩収入	0	21,742,434	21,742,434	0	21,742,434	
収益事業繰入額		159,096	159,096			
当期収入合計	78,177,387	107,032,882	85,710,561	21,322,321		
前期繰越収支差額	1,351,100	3,242,460	936,156	2,306,304		
合 計		110,275,342	86,646,717	23,628,625		

収 支 計 算 書

支出の部

(昭6 2.4.1日～昭6 3.3.31日)

科 目	予 算 額 円	決 算 額 円	内 訳		差 異 円	備 考
			公益部門 円	収益部門 円		
1. 事業費	57871,800	61,109,943	47,844,096	13,265,847	3,238,143	
図書購入費	392,000	344,125	75,125	269,000	△ 47,875	
臨時雇賃金	288,000	667,140	500,355	166,785	379,140	費用の公益・収益に分けられないものは7.5対2.5の比率の割合とした。
会議費	(△1,250,000)	216,000	162,000	54,000	△ 166,000	
旅費交通費	378,000	391,800	293,850	97,950	13,800	
大会開催事業費	1,200,000	2,196,630	1,647,470	549,160	996,630	予算額1,200,000円は会議費より組替
通信運搬費	5,840,900	5,699,225	3,944,966	1,754,259	△ 141,675	
編集費	5,191,800	4,199,213	2,977,805	1,221,408	△ 992,587	
印刷製本費	43,181,200	46,434,455	37,331,970	9,102,485	3,253,255	
負担金	439,900	71,255	35,255	36,000	△ 368,645	
雑費	300,000	280,100	265,300	14,800	△ 19,900	
学会賞金支出	200,000	200,000	200,000	0	0	
藤原賞金支出	100,000	100,000	100,000	0	0	
山本賞金支出	100,000	100,000	100,000	0	0	
奨励金支出	210,000	210,000	210,000	0	0	
2. 管理費	14,781,825	13,837,014	9,997,095	3,839,919	△ 944,811	
給料手当	5,906,424	5,721,297	4,290,977	1,430,320	△ 185,127	
退職金	0	0	0	0	0	
福利厚生費	399,901	377,118	282,838	94,280	△ 22,783	
会議費	705,000	628,270	471,200	157,070	△ 76,730	
旅費交通費	330,000	183,020	137,265	45,755	△ 146,980	
通信運搬費	1,600,000	1,181,191	885,891	295,300	△ 418,809	
什器備品費	233,000	352,677	264,507	88,170	119,677	
消耗品費	300,000	262,246	196,686	65,560	△ 37,754	
印刷製本費	250,000	547,975	410,980	136,995	297,975	
光熱水料	230,000	148,121	111,091	37,030	△ 81,879	
賃貸料	400,000	368,651	276,481	92,170	△ 31,349	
租税公課	400,000	313,860	2,200	311,660	△ 86,140	
雑費	900,000	608,999	459,289	149,710	△ 291,001	
支部交付金	2,562,500	2,495,350	1,871,510	623,840	△ 67,150	
諸謝金	210,000	199,999	0	199,999	△ 10,001	
電子計算機運営費	355,000	448,240	336,180	112,060	93,240	
3. 国際学術事業費	1,800,000	(△1,600,000)	(△1,600,000)	0	△ 200,000	△1,000,000円は同基金に繰入れ
国際学術交流費	(△1,000,000)	(△1,000,000)	(△1,000,000)	0	200,000	
4. 基本財産繰出	0	4,914,434	1,228,200	3,686,234	4,914,434	
5. 特定預金支出	800,000	1,313,671	1,313,671	0	513,671	
総会費用引当金繰入額	500,000	513,671	513,671	0	13,671	
退職給与引当金繰入額	300,000	300,000	300,000	0	0	
堀内奨励賞引当金繰入額		500,000	500,000	0	500,000	
6. その他公社債投資信託支出	0	23,742,434	23,742,434		23,742,434	

科 目	予 算 額 円	決 算 額 円	内 訳		差 異 円	備 考
			公益部門 円	収益部門 円		
7. 予備費・予備費	1,500,000 △ 678,330	0	0	0		△678,330は国際交 流費678,330に充 当し、同基金に繰入 れた。
公益事業繰出額		159,096		159,096	△ 821,670	
当期支出合計	76,753,625	105,676,592	84,725,496	20,951,096		
当期収支差額		1,356,290	985,065	371,225		
次期繰越収支額		4,598,750	1,921,221	2,677,529		
合 計		110,275,342	86,646,717	23,628,625		

損 益 計 算 書

自 62. 4. 1日
至 63. 3. 31日 単位：円

損 失 の 部		利 益 の 部	
事業支出	(13,265,847)	事業収入	(17,553,928)
印刷製本費	9,102,485	気象研究ノート収入	14,533,745
通信運搬費	1,754,259	書店扱収入	2,342,670
大会開催事業費	549,160	学術用語集刊行収入	405,000
その他雑費	1,859,943	その他の収入	272,513
運営基本支出	(3,839,919)	その他収入	(3,768,393)
人件費	1,430,320	受取利息収入	564,473
旅費交通費	45,755	広告料収入	2,080,826
貸貸料	92,170	別刷収入	1,013,264
通信運搬費	295,300	その他雑収入	109,830
什器備品費	88,170	期末棚卸	1,192,062
会議費	157,070		
公租公課	311,660		
光熱水料	37,030		
消耗品費	65,560		
雑費	1,316,884		
公益事業繰出	3,845,330		
期首棚卸	1,158,129		
費用合計	22,109,225	収益合計	22,514,383
当期利益	405,158		
前期繰越金	3,464,433		
合計	3,869,591		

貸 借 対 照 表

自 昭和62年 4月 1日
至 昭和63年 3月 31日

科 目	合 計 金 額 円		内 訳		
			公 益 部 門 円	収 益 部 門 円	
I 資産の部					
1. 流動資産					
現 金	124,064		114,895	9,169	
普 通 預 金	1,134,406		772,350	362,056	
郵 便 振 替 貯 金	97,820		97,820	0	
公 社 債 信 託 取 崩 金	21,742,434		21,742,434	0	
気 象 研 究 ノ ー ト 未 収 金	2,306,304		0	2,306,304	
公 社 債 信 託	936,156		936,156	0	
棚 卸 資 産	3,315,388		2,123,326	1,192,062	
流動資産合計		29,656,572		25,786,981	3,869,591
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
貸 付 信 託	16,898,300		16,898,300		
公 社 債 信 託	8,286,534		8,286,534		
投 資 有 価 証 券	5,479,600		5,479,600		
基本財産合計	30,664,434			30,664,434	0
(2) その他固定資産					
金 銭 信 託	500,000		500,000		
公 社 債 信 託	777,515		777,515		
公 社 債 信 託	500,000		500,000		
什 器 備 品	1,926,094		1,926,094		
固定資産合計	3,703,609	34,368,043		3,703,609	
資産合計			64,024,615	60,155,024	3,869,591
II 負債の部					
1. 流動負債					
前 受 会 費	21,742,434		21,742,434		
流動負債合計		21,742,434		21,742,434	0
2. 固定負債					
退 職 給 与 引 当 金	1,300,000		1,300,000		
総 会 費 用 引 当 金	913,671		913,671		
期 内 奨 励 賞 引 当 金	500,000		500,000		
固定負債合計		2,713,671		2,713,671	
負債合計			24,456,105	24,456,105	0
III 正味財産の部					
正 味 財 産		39,568,510		35,698,919	3,869,591
(うち基本金)		(30,664,434)			
(うち当期正味財産増加額)		(6,184,845)		5,779,687	405,158
負債及び正味財産合計		64,024,615		60,155,024	3,869,591
前 期 繰 越 剰 余 金					3,464,433
当 期 剰 余 金					405,158

(注) 前期繰越正味財産額は33,383,665である。

正味財産増減計算書

自 昭和62年 4月 1日
至 昭和63年 3月 31日

単位：円

	Ⅱ 減 少 の 部			Ⅰ 増 加 の 部		
	金額 円	公益部門 円	収益部門 円	金額 円	公益部門 円	収益部門 円
資産減少額	(28,707,545)	(27,549,416)	(11,581,29)	資産増加額	(36,206,061)	(34,642,774)
気象集誌特別号刊行費 引当金減少額	4,500,000	4,500,000		当期収支差額	1,356,290	985,065
什器備品減価償却額	439,722	439,722		退職給与引当金増加額	300,000	300,000
期首棚卸高減少額	2,025,389	867,260	1,158,129	総会費用引当金増加額	513,671	513,671
公社債投資信託減少額	21,742,434	21,742,434		期內奨励賞金引当増加額	500,000	500,000
負債増加額	(13,136,71)	(13,136,71)		公社債投資信託増加額	23,742,434	23,742,434
退職給与引当金増加額	300,000	300,000		期末棚卸増加額	3,315,388	2,123,326
総会費用引当預金増加額	513,671	513,671		基本財産増加額他	6,478,278	6,478,278
期內奨励賞引当金増加額	500,000	500,000				
減少額合計	300,212,16	288,630,87	1,158,129	増加額合計	36,206,061	34,642,774
当期正味財産増加額	618,484,5	5,779,687	405,158			
合計	362,060,61	3,464,277,4	1,563,287	合計	36,206,061	3,464,277,4
				当期正味財産増加額	618,484,5	5,779,687
				前期繰越下味財産	33,383,665	29,919,232
				期末正味財産合計	39,568,510	35,698,919
						38,695,91

昭和62年度 財産目録

昭和63.3.31現在)

社団法人 日本気象学会
理事長 山元 竜三郎

資産総額 61,718,311円

1. 基本財産 (基本金・基金) 30,664,434円

不 動 産 0円

動 産 30,664,434円

種 類	預 入 先	金 額 円	備 考
貸付信託	信友信託銀行(日比谷支店)	10,750,000	基本金
"	"	3,500,000	山本賞基金
"	"	1,000,000	藤原賞基金
"	三井信託銀行	1,648,300	"
公社債信託	野村証券K.K(銀座支店)	8,286,534	国際学術交流基金
投資有価証券	山一証券K.K(本店)	5,479,600	堀内基金奨励賞
合 計		30,664,434	

2. 積立金 2,713,671円

種 類	預 入 先	金 額 円	備 考
金 銭 信 託	住友信託銀行(日比谷支店)	1,300,000	退職給与引当預金
公社債信託	野村証券K.K(銀座支店)	913,671	総会費用引当預金
"	日興証券K.K(新丸ビル支店)	500,000	堀内奨励賞引当預金
合 計		2,713,671	

3. 運用財産

23,098,724円

種類	預入先	金額 円	備考
普通預金	第一勧業銀行(大手町支店)	8,194,461	
"	東京銀行(丸の内支店)	3,149,445	
郵便振替貯金	東京中央郵便局	97,820	
"	大手町郵便局	0	国際学術交流基金口
公社債信託	野村証券K.K(東京支店)	10,502,051	
"	日興証券K.K(新丸ビル支店)	11,240,383	
現金	手許保管	124,064	
		23,098,724	

4. 什器備品

1,926,094円

5. 期末在庫高

3,315,388円

昭和62年度計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法について

投資有価証券……………取得価格による原価基準を採用している。

(2) 固定資産の減価償却について

什器備品……………定率法による減価償却を実施している。

(3) 引当金の計上基準について

退職給与引当金………期末退職給与の要支給額に相当する金額を計上している。

総会費用引当準備金………隔年度の総会費用要経費に相当する金額を計上している。

(4) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収金、未払金、前払金及び前受金を含めることにしている。なお、当期末残高は3.に記載するとおりである。

2. 基本財産の増減及びその残高は、次のとおりである。

科 目	当期増加額 円	当期減少額 円	当期末残高 円
基 本 金	500,000	0	1,750,000
藤 原 賞 基 金	648,300	0	2,648,300
山 本 賞 基 金	0	0	3,500,000
国際学術交流基金	3,286,534	0	8,286,534
堀内基金奨励賞	479,600	0	5,479,600
合 計 (基 金)	4,914,434	0	30,664,434

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	当 期 末 残 高 円	内 訳	
		公 益 部 門 円	収 益 部 門 円
現 金	1 2 4,0 6 4	1 1 4,8 9 5	9,1 6 9
普 通 預 金	1,1 3 4,4 0 6	7 7 2,3 5 0	3 6 2,0 5 6
郵 便 振 替 貯 金	9 7,8 2 0	9 7,8 2 0	0
公 社 債 信 託	2 1,7 4 2,4 3 4	2 1,7 4 2,4 3 4	0
合 計	2 3,0 9 8,7 2 4	2 2,7 2 7,4 9 9	3 7 1,2 2 5
前 受 会 費	2 1,7 4 2,4 3 4	2 1,7 4 2,4 3 4	0
合 計	2 1,7 4 2,4 3 4	2 1,7 4 2,4 3 4	0
当 期 繰 越 収 支 差 額	1,3 5 6,2 9 0	9 8 5,0 6 5	3 7 1,2 2 5

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期残高は、次のとおりである。

科 目	取 得 価 額 円	減 価 償 却 累 計 額 円	当 期 末 残 高 円
什 器 備 品	3,0 6 1,9 1 6	1,1 3 5,8 2 2	1,9 2 6,0 9 4
合 計	3,0 6 1,9 1 6	1,1 3 5,8 2 2	1,9 2 6,0 9 4

社団法人日本気象学会監査報告書

社団法人日本気象学会の財産及び業務執行の状況を次のとおり報告する。

1. 監査月日 昭和63年4月19日
2. 監査場所 東京都千代田区大手町1-3-4 気象庁内
社団法人 日本気象学会事務局
3. 監査帳簿
 - (1) 昭和62年度収支計算書他
 - (2) 財産目録
 - (3) 総勘定元帳
 - (4) 現金出納帳
 - (5) 預金出納帳
 - (6) 備品台帳
 - (7) 物品出納帳(物品在庫調書含む)
 - (8) 領収書綴
 - (9) 預金証書及び普通預金通帳
 - (10) 郵便局振替払出納帳
 - (11) 国庫金送金通知書綴
 - (12) 現金書留受領簿
 - (13) 小切手帳及び小切手受払簿
 - (14) 昭和62年度事業報告書
4. 監査内容
 - (1) 昭和62年度収支計算書及びその他の計算書について、その経理状況を監査するとともに、財政状況を調べた。
 - (2) 上記の帳簿類について、照合を行うとともに、出納状況及び記載事項の監査を実施した。
 - (3) 学会の運営状況について聴取し、意見を述べた。

5. 監査意見

監査の結果、昭和62年4月1日から昭和63年3月31日までの会計年度の収支決算書は正しいと認める。会計帳簿を照合したところ、その記帳は正確である。整理もよくなされている。

会費収入状況は良好であり、財政は安定している。

事業はほぼ計画どおり遂行されている。天氣に新たに「素顔」「海外だより」「研究機関めぐり」が登場するなど、広範な会員に親しみやすい紙面にしようとする努力がうかがわれる。

今後共、より以上に地方の会員が容易に学会活動に参加できる様な紙面づくりに努力して欲しい。気象集誌66巻1号から開始した英文添削は有効であると考えられる。国際学術交流事業は順調にすすんでおり、今後もこの方針ですすめる必要がある。

新たな機器による事務体制の整備はすすんできている。

今後、更に会員名簿、会費納入等のデータベースを整備し、会員へのサービスの向上に努める必要がある。

会員数は増加しているが、ひきつづき若い研究者や気象に接する他の分野の研究者に対して入会をすすめるなどして、安定した会員数を保つよう努力することが必要である。

現在、基金の一部が株式で保有されているが、他の預貯金に振替え、学会の財産を安定した形態で保持することが望ましい。

学会の活動範囲の拡大に伴い仕事量が増大しているにもかかわらず、この一年間の学会の運営に対する役員、事務局員の努力を評価する。

昭和63年4月19日

監事 相原正彦 ㊟

監事 浜田忠昭 ㊟

昭和63年度事業計画

1. 機関誌等の刊行

- (1) 天 気 35巻4号～36巻3号 12冊 864頁
 (2) 気象集誌 66巻2号～67巻1号 6冊 1,090頁
 英文添削を行う。
 (3) 気象研究ノート 162号～165号

2. 講演会および研究会

- (1) 春季大会 昭和63年5月18日～20日
 柏：柏市民文化会館他（担当：気象大学校）
 ポスター・セッションの実行。
 (2) 秋季大会 昭和63年10月26日～28日
 仙台：宮城県民会館（担当：東北支部）
 スペシャル・セッションの試行。
 (3) 研究会 南極圏の気象等。
 (4) 月例会等 例年通り。
 (5) 他学会との共催等 例年通り。

3. 普及活動

- (1) 第22回夏季大学 「環境としての大気」
 昭和63年7月26日～29日、気象庁
 (2) 関西支部第10回夏季大学
 「気象予報と防災（災害）……気象と生活」
 昭和63年8月1日～3日
 「大阪府立労働センター」
 (3) 北海道支部第6回夏委大学
 「未 定」
 昭和63年7月27日～28日

4. 国際学術交流

(1) 国際学術交流事業

「モンスーンに関する国際シンポジウム」 後援。

昭和63年11月23日～28日、インド、プーナ。

インド熱帯気象研究所主催。

スピーカーとして、松本淳・杉正人会員を派遣。参加費用を援助。

(2) 国際学術研究集会参加補助

例年通り募集。

(3) 募 金

事業及び基金を充実するため、会員及び団体からの募金を引き続き行う。

5. 事務局の事務機械化

(1) 会員のデータベースの充実と事務作業への利用を進める。

(2) 事務量の増大に対応するため、長期アルバイトを雇う。

昭和63年度収支予算書

社団法人 日本気象学会

I 収入の部

(昭和63年4月1日から昭和64年3月31日まで)

勘定科目			予算額 (千円)	前年度 予算額 (千円)	増減 (千円)	備考
大科目	中科目	小科目				
1.基本財産 運用収入			1,665	1,040	625	
	基本財産利息収入	基本財産利息収入	1,005	865	140	
	基本財産配当金収入	基本財産配当金収入	660	175	485	
2.会費入金 収入			36,070	35,392	678	
	通常会員会費収入	通常会員会費収入	6,260	6,083	177	64/1~3月の分
	団体会員会費収入	団体会員会費収入	4,918	4,869	49	2/1現 64年度分
	外国人会員会費収入	外国人会員会費収入	166	194	△28	2/1現 64/1~3月の分
		外国団体会員会費収入	153	156	△3	2/1現 64/1~3月の分
	賛助会員会費収入	賛助会員会費収入	2,800	2,800	0	
	前受金	前期前受会費収入	21,733	21,253	480	64/4~12月の分
	入金収入	入金収入	40	37	3	
3.事業収入			18,304	20,731	△2,427	
	大会開催事業収入	大会開催事業収入	752	0	752	
	気象研究ノート 刊行収入	気象研究ノート 刊行収入	6,659	6,184	475	
	気象研究ノート 未収金収入	気象研究ノート 未収金収入	2,306	1,946	360	
	予稿集刊行収入	予稿集刊行収入	3,920	3,920	0	
	夏季大学講座 事業収入	夏季大学講座 事業収入	900	825	75	
	書店扱収入	書店扱収入	2,655	2,655	0	
	ペーパーズ発行収入	ペーパーズ発行収入	212	212	0	
	気象集誌 特別号刊行収入	気象集誌 特別号刊行収入	900	4,584	△3,684	
	学術用語集発行収入	気象学編発行収入	0	405	△405	
4.補助金 収入			3,710	3,710	0	
	文部省補助金収入	科学研究費収入	3,710	3,710	0	
5.寄付金 収入			2,600	100	2,500	
	寄付金収入	寄付金収入	2,500	0	2,500	
	募金収入	募金収入	100	100	0	

勘 定 科 目			予 算 額 (千円)	前 年 度 予 算 額 (千円)	増 減 (千円)	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
6.雑収入			13,644	12,704	940	
	受 取 利 息	受 取 利 息	640	700	△60	
	別 刷 収 入	別 刷 収 入	3,271	3,271	0	
	投 稿 料 収 入	投 稿 料 収 入	6,512	5,512	1,000	
	広 告 料 収 入	広 告 料 収 入	2,912	2,912	0	
	そ の 他 雑 収 入	そ の 他 雑 収 入	309	309	0	
7.特定預金 取崩収入			2,200	4,500	△2,300	
	退職給与引当預金 取崩収入	退職給与引当預金 取崩収入	1,300	0	1,300	
	総会費用引当預金 取崩収入	総会費用引当預金 取崩収入	900	0	900	
	気象集誌特別号引当 預金取崩収入	気象集誌特別号引当 預金取崩収入	0	4,500	△4,500	
当 期 収 入 合 計 (A)			78,193	78,177	16	
当期繰越金			20,197	19,062	1,135	
	前 受 金	前受会費繰越金	20,197	19,062	1,135	64/4~12月の分
前期繰越金			2,662	1,297	1,365	
	前期繰越収支差額	前期繰越収支差額	2,662	1,297	1,365	
収 入 合 計 (B)			101,052	98,536	2,516	

II 支出の部

勘定科目			予算額 (千円)	前年度 予算額 (千円)	増減 (千円)	備考
大科目	中科目	小科目				
1.事業費			55,272	57,872	△2,600	
	図書購入費	図書購入費	300	392	△92	
	臨時雇賃金	臨時雇賃金	1,192	288	904	
	会議費	会議費	800	250	550	
	旅費交通費	旅費交通費	360	378	△18	
	大会開催事業費	大会開催事業費	2,819	1,000	1,819	
	天気刊行費		21,188	20,189	999	
		印刷製本費	15,864	14,900	964	
		編集費	2,026	2,026	0	
		通信運搬費	3,298	3,263	35	
	気象集誌刊行費		17,011	16,320	691	
		印刷製本費	13,422	13,422	0	
		編集費	2,308	1,814	494	
		通信運搬費	1,281	1,084	197	
	気象集誌 特別号刊行費		0	8,165	△8,165	
		印刷製本費	0	7,112	△7,112	
		編集費	0	500	△500	
		通信運搬費	0	553	△553	
	気象研究 ノート刊行費		7,323	6,840	483	
		印刷製本費	5,878	5,487	391	
		編集費	807	715	92	
		通信運搬費	638	638	0	
	予稿集刊行費		2,442	2,063	379	
		印刷製本費	2,044	1,760	284	
		通信運搬費	398	303	95	
	夏季大学講座 事業費		637	637	0	
		印刷製本費	500	500	0	
		編集費	137	137	0	

勘 定 科 目			予 算 額 (千円)	前 年 度 予 算 額 (千円)	増 減 (千円)	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
	負 担 金 支 出	負 担 金 支 出	190	440	△250	
	学 会 賞 金 支 出	学 会 賞 金 支 出	200	200	0	
	藤 原 賞 金 支 出	藤 原 賞 金 支 出	100	100	0	
	山 本 賞 金 支 出	山 本 賞 金 支 出	100	100	0	
	奨 励 金 支 出	奨 励 金 支 出	210	210	0	
	堀 内 基 金 奨 励 賞 支 出	堀 内 基 金 奨 励 賞 支 出	100	0	100	
	雑 費	雑 費	300	300	0	
2.管理費			16,387	14,782	1,605	
	給 料 手 当	給 料 手 当	6,195	5,906	289	
	退 職 金	退 職 金	1,377	0	1,377	
	福 利 厚 生 費	福 利 厚 生 費	419	400	19	
	会 議 費	会 議 費	735	705	30	
	旅 費 交 通 費	旅 費 交 通 費	330	330	0	
	通 信 運 搬 費	通 信 運 搬 費	1,630	1,600	30	
	什 器 備 品 費	什 器 備 品 費	233	233	0	
	消 耗 品 費	消 耗 品 費	300	300	0	
	印 刷 製 本 費	印 刷 製 本 費	350	250	0	
	光 熱 水 料	光 熱 水 料	230	230	0	
	賃 借 料	賃 借 料	400	400	0	
	租 税 公 課	租 税 公 課	400	400	0	
	支 部 交 付 金 支 出	支 部 交 付 金 支 出	2,588	2,563	25	
	諸 謝 金	諸 謝 金	100	210	△110	
	電 子 計 算 機 運 営 費	電 子 計 算 機 運 営 費	600	355	245	
	雑 費	雑 費	500	900	△400	
3.国際学術 交流事業費			1,800	1,800	0	
	国 際 学 術 交 流 費	国 際 学 術 交 流 費	1,800	1,800	0	
4.基本財産 繰 出			2,600	0	2,600	
	基 本 財 産 繰 出	国 際 学 術 交 流 基 金 繰 出	2,600	0	2,600	
5.特定預 金 支 出			800	800	0	

勘 定 科 目			予 算 額 (千円)	前 年 度 予 算 額 (千円)	増 減 (千円)	備 考
大 科 目	中 科 目	小 科 目				
	退 職 給 与 引 当	退 職 給 与 引 当	300	300	0	
	預 金 支 出	預 金 支 出				
	総 会 費 用 引 当	総 会 費 用 引 当	500	500	0	
	預 金 支 出	預 金 支 出				
6.予備費			1,500	1,500	0	
	予 備 費	予 備 費	1,500	1,500	0	
当 期 支 出 合 計 (C)			78,359	76,754	1,605	
当 期 収 支 差 額 (A)-(C)			166	1,423	△1,257	
次 期 繰 越 前 受 会 費 (D)			22,318	20,387	1,931	
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B)-(C+D)			375	1,395	△1,020	